

科目区分：教科に関する専門科目（社会科教育専修）

授業科目名：社会学Ⅱ

## 文献講読とその応用的展開における課題

社会科教育講座・中西典子

### 1. 本授業の位置と目的

本授業は、教員養成課程の社会科教育および情報文化課程の情報教育コースに所属する学生（3回生）を対象とした後期開講の専門科目である。また、自由選択科目としても位置づけられているため、上記以外の教科や課程の学生も受講しており、受講者は30名であった。

本授業は、基本的に「社会学Ⅰ」を受講した学生を対象としている。高等学校までの教科としての社会科に慣れ親しんできた学生にとっては、社会学はほとんどなじみのないものであるため、社会学とはどのような学問なのかということのある程度理解していることが前提となる。その上で、社会学の多岐にわたる応用領域のなかの一分野である地域社会学に接近しつつ、身近な日常生活の場から生じる諸問題に気づき、見識を深めていくということを目的とした。しかし実際は、上述したように受講者は多様な構成となっており、必ずしも社会学Ⅰの受講生とは限らないため、授業の形式・内容の双方で応用領域に踏み込むことができたという実感は乏しい。

### 2. 本授業の運営

今年度の本授業では、編著書『地域社会へのまなざし』を素材に、前半部と後半部という二部構成とした。前半は、テキスト各章の各節ずつ担当を決め、担当節の要旨を自分なりの言葉でかみ砕いて解説した上で、担当者の問題提起に基づいてディスカッションを行うという方法を採用した。担当者は、口頭で解説することを原則とするが、それが難しい場合は、A4版1枚のレジメを作成して解説することを可能とした。また、ディスカッションは、多人数のためグループ間でまず行い、代表者が意見をまとめて発言するという方式にした。後半は、各章のサブテーマから応用させた自らのテーマに関して、2～3名でパワーポイントを使用しながらプレゼンテーションを行い、その後、全体で質疑応答を行うという手法を採用した。

### 3. 本授業のテクニカルなねらい

以上の2つの方法を組み合わせることによって、形式面では、90分という長時間の授業に耐えられるようにすること、また内容面においては、文献を精読した上で、それを他者に正確に伝えながら問題提起をしていく能力を養うことや、ディスカッションの持ち方、プレゼンテーション・スキルの向上などのトレーニングを兼ねながら、受講生が、地域に生起する諸問題に関心を持つようになることを期した。

### 4. 本授業の評価—受講者の感想から

#### (1) 成果

このような意図は、ある程度は成功したと考える。それは受講生の以下のような感想から読み取れる。

・「今回社会学の講義を受けてみてやはり自分の担当の章に関しては調べたりしながらレジメを作らなければならないのでしっかりと考えることができ、どのような課題があってどうしていかなければならないのかということなどがわかったような気がする。他の章に関しても小グループで話し合うことによって自分でも考えることができ、他の人の意見も聞くことができるので様々な視点から考えることができた。」

・「日々めまぐるしく変化し続ける地域社会のなかで、今、どのような問題が起きているのか。そしてその問題と向き合っていくべきなのか。講義を受ける中でそのような考察を深め、地域社会で生きる一人の人間として知識の拡充を図ることができたのでよかったです。」

・「ただ単に教科書を読み進めていくだけではなく、そこから生じた疑問や論点について全員で話し合う機会があったので良かったです。また、今回は後半部分において、自身が興味を持った部分について深く調べ、発表できるようにしており、受け身的な授業でなかった点も良かったなと感じました。」

・「テキストを読み、レジメを作成して発表する中で、各自が問題提起をし、その答えを自分なりに導き出し、他の人の意見を聞くということはとても参考になった。また、後半で章に関するテーマを各自で考え、プレゼンテーショ

ンを行うという形態をとることで、1つのテーマに対する人それぞれの観点の違いを感じた。今回、様々な問題を「地域社会」という世界と結びつけることで、現在行われている取組みについてある程度の知識と自分なりの考えを得ることができ、新たな視点で物事を考えることができたように思う。」

・「レジュメを作ったりすることも大変だし、各章の課題や論点というのも難しいものばかりなので短い時間の中で上手く議論することは大変だが主体的に取り組むことができる授業なのですごく為になり有意義な時間だった。」

・「この講義を通して、地域社会の在り方や問題点など様々なことが分かった。章ごとにグループで議論する時間もあり、あらゆる意見が聞けたので非常に勉強になった。そして、自ら考えることもでき、今まで無意識であった事に興味を持てた。」

・「授業全体を通しては、様々な社会問題や諸事情を把握することでより良い社会とはどういったものなのかを考えることができたように思う。現代社会は多様化しており、私たちの生活は今回の授業で取り上げたような事情が絡んでくることもある。地域に生きる人間の一人として、『よりよい生き方』をするためには今回の授業のように様々な提案をして意見を出していくことが必要だと思う。」

・「各章の内容と地域社会とのつながりを踏まえた教科書だったので、興味がわく内容だった。内容が難しいこともあったけど、討論の時間にその疑問が解けるということもあり、難易度的にも適切だったと思う。」

・「今回の発表は前回の授業（社会科学Ⅰ…ママ）とは異なり、しっかりと自分の中の疑問から始まり、資料を選び、発表資料を作成できたと思う。みんなの意見を聞けなかったのは残念だが、よりよい機会で、またこの問題を取り上げようと考えている。」

## （2）課題

しかしながら、二部構成としたことで、逆に90分という時間で1つのテーマをやり切ることは不可能であった。2限目という時間帯もあり、ほぼ毎回のように授業が時間通りに終了しないことに対し、受講者もさることながら、筆者自身、授業が思い通りに進行しないことに対する苛立ちを感じるようになった。その要因は、前半部の長さにある。各節の担当者にはかみ砕いた説明が難しく、結局、テキストを要約したレジュメを読み上げることに終始していた（A4版1枚以上のレジュメになった受講者も多かった）。また、問題提起は言われてから考えるというケースも目立った。そのため、ディスカッションを深めることがほとんどできなかった。また、後半のプレゼンテーションの時間は10～15分程度しか残されず、結局、受講生相互の質疑応答はできなかった。こ

の点について以下のような感想が出されている。

・「授業時間の配分についていうなら、詰め込みすぎだったと思う。後半の発表のほうについての討論の時間が取れないことが多く、聞きたいことがきけないということもあったので、後半にもうすこし時間を割くべきだった。1時間の中で扱う内容は関連性があると思うので前半のまとめの時間は討論などはせず、後半の内容を踏まえてまとめて行うようにすれば時間のゆとりもできたのではないかと感じた。」

・「私にとって発表はとても不慣れなものだったので、いい経験になったし、また何らかの議題に関していろんな人の意見を聞けるので、有意義な時間だった。しかし、時間的に詰めすぎている部分があると思うので、改善してほしい。1つのことについてもっと長く話が聞きたい。」

・「様々な視点から地域社会の課題について、前半で学び疑問に思ったことを議論し、後半ではテーマにそった発表があり、毎回とても充実した90分でした。もう少し時間があればより深く議論することが出来たと思います。」

・「2部の時間が短く、話し合いをする時間がほとんど取ることができなかったことだけは少し残念だったかなと思う。全体的には楽しくできたしよかったと思う。」

・「全体として、ひとつの章に関して深く追求し、議論できたことについてはとても良い授業形態だったのではないかと思います。自分の担当のところは予習もしっかりできたことで、深く理解することができました。後半のプレゼンテーションで、さらに理解を深めることができたのもよかったです。ただ、もう少し一回の授業の内容量を減らせば時間内でスムーズに済ますことができたのではないのでしょうか。」

筆者自身、今回のような二部構成は初めての取り組みであったため、授業の回を重ねるなかで問題点がみえてきて、その都度修正を施しながら進めていくという方法を採らざるを得なかった。なかでも時間不足は決定的であり、時計を気にして議論が深まらず、また、受講生が準備したプレゼンテーションのなかには、そこから90分の授業が成り立つような要素が含まれているものがあったにもかかわらず、時間切れで打ち切りとなったことは甚だ残念である。以下のような感想からも、毎回の授業でこの形式は厳しいと考える。

・「講義を通じて議論を行っていったわけだが、そこでの反省として、事例や基本的知識の乏しい中で議論を行っているという面が見られ、議論が活発化せず、本質的な問題に迫っていないという側面も見られたと感じている。」

・「授業の内容としてはテキストの内容も含めて妥当だとは思われますが、より参考文献等に触れたり、議論を絞って行ったりしてもよいと感じる場面もありました。」したがって、時間配分をはじめ、知識の伝授を踏まえた議論展開の重要性が今後の課題である。